

遠隔配信での英語授業の取組

～遠隔授業での1人1台タブレット端末の効果的な活用方法について～

遠隔授業配信センター 教諭 濱田 静代

1 はじめに

Society 5.0 の時代を生きる子供たちのために、「個別最適化され、創造性を育む教育 ICT 環境の実現」に向けて「GIGA スクール構想」が推進されている。本県でも、1人1台タブレット端末が教育現場で導入され、児童生徒の学習を支援したり、教員の授業運営の効率化を図ったりするなど活用の場面が広がりつつある。遠隔授業においてもタブレット端末の効果的な活用方法を探っていく必要があり、本年度は遠隔教育システムとタブレット端末を併用した授業の実践について1年間取り組んだ。

2 実践の内容・方法

(1) 生徒が使用するタブレット端末について

生徒は市町村から無償貸与されているタブレット端末か、学校で貸し出しされている端末を使用している。インターネットに接続する方法は学校によって異なるが、校内ネットワークか端末のモバイルWi-Fiを無料で使用できる。アプリは、Google Workspace やロイロノートを利用している。

(2) 英語4技能の育成とタブレット端末の活用

領域	取組と検証 (Google Workspace やロイロノートを活用)
Listening (聞くこと) ・ディクテーション ・リスニング形式問題	【取組】 ・音声 (MP3 形式) や課題、テストを生徒のタブレット端末に送信する。英文のスク립トは配信センター側から電子黒板に映し、聞き取れなかった箇所や解説ポイントなどを生徒及び教員の双方が書き込む。 ・ウェブ上で学習できるサイトを紹介し、家庭学習課題とする。 【検証】 ・タブレット端末に音声を送信することで、聞き取れなかった箇所は各個人がスピードを調整しながら何度も聞くことができた。また、テストなどの解答は教員のPC上でリアルタイムに自動集計することができ、生徒の理解度を確認した上での授業展開が可能になった。スク립トはあらかじめ作成しておき、電子黒板に即座に提示できるため時間の短縮になり、生徒が思考を深める時間が増した。ウェブ上での動画サイトやニュースサイトは、自宅での学習ツールとして紹介し、授業ではその内容を生徒同士が共有することで理解を深めることができた。
Speaking (話すこと) ・会話 ・インタビュ ・スピーチ ・発音チェック ・音読	【取組】 ・テレビ会議アプリ (Zoom/Meet) を用いて、配信センターの教員と生徒が個別にパフォーマンステストや会話練習などを実施する。 ・録音機能を用いて、教科書の音読やスピーチなどを生徒に録音させ、教員に送信させる。また、自分の音声を聞き、気付いたことや改善点を自分自身で確認するよう指示する。 ・音声認識アプリを利用し、各自が読み上げる英文を文字変換する指導を行う。 【検証】 ・配信センターのシステムでは、生徒一人一人と個別に会話ができないために、1対1での会話練習やテストなどにおいては、テレビ会議の利用は不可欠であった。また、アウトプット活動はやりっぱなしで終わっている場合が多いが、音声を録音することにより

	<p>生徒自身で音声モデルと比較した振り返りや改善ができ、教員による授業評価の一部にもなった。音声認識アプリを利用した読み上げ活動では、正しい発音とアクセントで音読しないと英文が画面に表示されない。生徒にとってはゲーム感覚で取り組めるため家庭学習のツールとして活用した。</p>
<p>Reading (読むこと)</p> <ul style="list-style-type: none"> 音読 読解 	<p>【取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> タブレット端末に教科書のそのままの英文や新出語句を抜いた英文など多様な素材を提示し、リーディング指導を行う。 電子黒板上にタイマーを表示して、時間を意識させながら速読指導を行い、読み終わった生徒からタブレット上で課題に取り組むよう指示する。 <p>【検証】</p> <ul style="list-style-type: none"> 多様な素材を提示することで段階的な指導ができ、利便性が高かった。また、問題の解答は、教員の PC で即座に自動集計され、「誤答の多い問題」なども表示されるため、ポイントを押さえた指導が可能になった。一方で、電子黒板やタブレット端末の英文を 50 分間集中して見ることで体調不良（頭痛・目の渇き）を訴える生徒もいた。また、スラッシュや単語の意味などの書き込みが容易であるという点から、紙のワークシートも併用してリーディング活動を行う方が好ましいと分かった。
<p>Writing (書くこと)</p> <ul style="list-style-type: none"> 英作文 	<p>【取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> 手書きのライティング課題を複合機で送ると同時に、タブレット端末でスクリーンショットをして、教員の PC に送信するよう生徒に指示する。 ライティング課題をタブレット端末に直接打ちこむよう指示し、その課題を教員の PC に送信させる。教員のフィードバックもタブレット端末を通じて行う。 <p>【検証】</p> <ul style="list-style-type: none"> 複合機を用いて課題を送受信できるが、字が薄くて読みづらい場合が時々あった。スクリーンショットをして送られた画像は、クリアに表示されるため文字の判別に有効であった。一方で、キーボードでの直接入力には効率が悪いと頻繁には行わなかった。生徒にとっては、手書きの作業の方が集中して正確に書け、教員にとっても訂正箇所をピンポイントで PC 上に書き込む作業はかなり時間がかかった。複合機を用い、双方がワークシートを送受信するか、生徒がスクリーンショットした画像を教員が印刷、添削して PC に取り込み、生徒のタブレットに送信する方法が遠隔授業においては利便性が高い。
<p>その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> 写真などの情報を視覚的に提示することで、授業が円滑に行われた。 遠隔教育システムを利用して、動画（MP4 形式）を作成し、生徒のタブレット端末に送信した。欠席などで生徒が授業に参加できない時の手立てとして活用できた。 Google ドライブにデータを保存・蓄積することにより安全にバックアップができた。

3 実践の成果

タブレット端末は、機動性に優れアプリも豊富であるため英語の授業において効果的な活用が期待できる。また、遠隔教育システムとタブレット端末のそれぞれの機能の特性・特質を把握し、併用していくことで活動をさらに活性化できることが分かった。

4 課題及び今後の取組

課題としては、生徒の様子をよく観察しながら、単元のねらいや活動内容に応じた紙媒体とのハイブリッド使用を改良していくことなどが挙げられる。次年度は、遠隔授業で生かせる効果的なタブレット端末の活用方法と指導教材に関して、さらなる開発と検証を研究として進める。